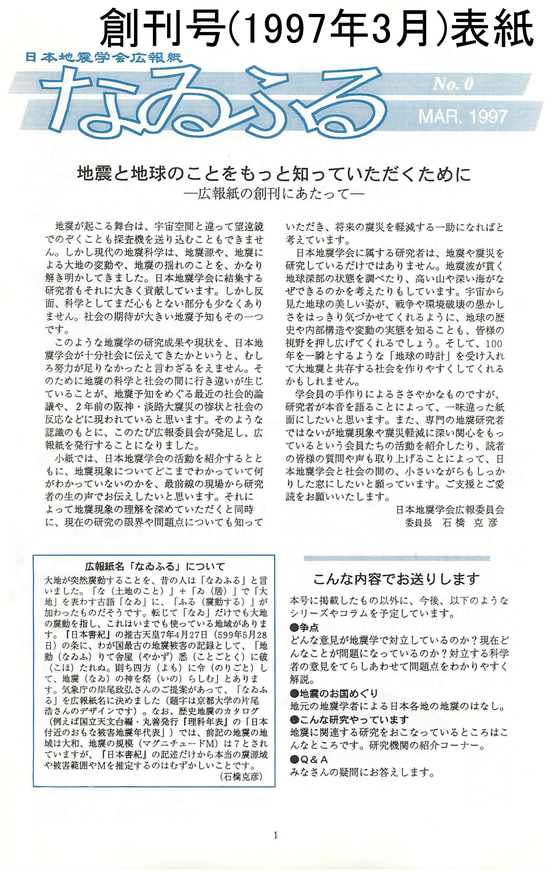
広報委員会の活動
Public relations committee

広報紙「なゐふる」発行

3か月毎の地震活動に加えて、研究者等に**毎号3つの話題**について、分かりやすく記事を執筆していただいています。今後も、学会員の皆さんのご協力をよろしくお願いします。

創刊号(1997年3月)表紙


日本地震学会広報紙
なゐふる No. 0 MAR. 1997

地震と地球のことをもっと知っていただくために
―広報紙の創刊にあたって―

地震が起こる舞台は、宇宙空間と違って望遠鏡でのぞくことも探査機を送り込むこともできません。しかし現代の地震科学は、地震源や、地震による大地の変動や、地震の揺れのことを、かなり解き明かしてきました。日本地震学会に結集する研究者もそれに大きく貢献しています。しかし反面、科学としてまだ心もとない部分も少なくありません。社会の期待が大きい地震予知もその一つです。

このような地震学の研究成果や現状を、日本地震学会が十分社会に伝えてきたかというと、むしろ努力が足りなかったと言わざるをえません。そのために地震の科学と社会の間に行き違いが生じていることが、地震予知をめぐる最近の社会的論議や、2年前の阪神・淡路大震災の惨状と社会の反応などに現われていると思います。そのような認識のもとに、このたび広報委員会が発足し、広報紙を発行することになりました。

小紙では、日本地震学会の活動を紹介するとともに、地震現象についてどこまでわかっていて何がわかっていないのかを、最前線の現場から研究者の生の声でお伝えしたいと思います。それによって地震現象の理解を深めていただくと同時に、現在の研究の限界や問題点についても知っていただき、将来の震災を軽減する一助になればと考えています。

日本地震学会に属する研究者は、地震や震災を研究しているだけではありません。地震波が貫く地球深部の状態を調べたり、高い山や深い海がなぜできるのかを考えたりもしています。宇宙から見た地球の美しい姿が、戦争や環境破壊の愚かしさをはっきり気づかせてくれるように、地球の歴史や内部構造や変動の実態を知ることも、皆様の視野を押し広げてくれるでしょう。そして、100年を一瞬とするような「地球の時計」を受け入れて大地震と共存する社会を作りやすくしてくれるかもしれません。

学会員の手作りによるささやかなものですが、研究者が本音を語ることによって、一味違った紙面にしたいと思います。また、専門の地震研究者ではないが地震現象や震災軽減に深い関心をもっているという会員たちの活動を紹介したり、読者の皆様の質問や声も取り上げることによって、日本地震学会と社会の間の、小さいながらもしっかりした窓にしたいと願っています。ご支援と ご愛読をお願いいたします。

日本地震学会広報委員会
委員長　石橋　克彦

広報紙名「なゐふる」について
大地が突然震動することを、昔の人は「なゐふる」と言いました。「な（土地のこと）」＋「ゐ（居）」で「大地」を表わす古語「なゐ」に、「ふる（震動する）」が加わったものだそうです。転じて「なゐ」だけでも大地の震動を指し、これはいまでも使っている地域があります。『日本書紀』の推古天皇7年4月27日（599年5月28日）の条に、わが国最古の地震被害の記録として、「地動（なゐふる）りて舎屋（やかず）悉（ことごと）く破（こは）れぬ。則ち四方（よも）に令（のりごと）して、地震（なゐ）の神を祭（いの）らしむ」とあります。気象庁の岩尾敏弘さんのご提案があって、「なゐふる」を広報紙名に決めました（題字は京都大学の片尾浩さんのデザインです）。なお、歴史地震のカタログ（例えば国立天文台編・丸善発行『理科年表』の「日本付近のおもな被害地震年代表」）では、前記の地震の地域は大和、地震の規模（マグニチュードM）は7とされていますが、『日本書紀』の記述だけから本当の震源域や被害範囲やMを推定するのはむずかしいことです。
（石橋克彦）

こんな内容でお送りします
本号に掲載したもの以外に、今後、以下のようなシリーズやコラムを予定しています。
●争点
どんな意見が地震学で対立しているのか？現在どんなことが問題になっているのか？対立する科学者の意見をでらしあわせて問題点をわかりやすく解説。
●地震のお国めぐり
地元の地震学者による日本各地の地震のはなし。
●こんな研究やっています
地震に関連する研究をおこなっているところはこんなところです。研究機関の紹介コーナー。
●Q＆A
みなさんの疑問にお答えします。

1

最新(142)号(2025年8月発行)表紙

「なゐふる（ナイフル）」は「地震」の古語です。「なゐ」は「大地」、「ふる」は「震動する」の意味です。
なゐふる 2025.2 日本地震学会広報紙 No. 140
Contents
2 日向灘における大地震の発生履歴と特徴
4 シリーズ「阪神・淡路大震災から30年」その②
内陸地震の地震ハザード評価のための震源像の理解
6 80年前の災害をイメージし、未来の防災へつなげる
～1945年三河地震
8 イベント報告
・2024年度ジオパーク巡検実施報告　～佐渡ジオパーク～
・日本地震学会2024年度秋季大会一般公開セミナー
「新潟から神戸にかけておこる被害地震に迫る
－2024年能登半島地震から考える－」開催報告
1945年三河地震の被災者インタビューに基づいて描かれた絵。詳しくは6ページをご覧ください。
主な地震活動 Seismic Activity in 3 months
2024年10月～2024年12月
気象庁地震火山部 豊沼一成
2024年10月～2024年12月に震度4以上を観測した地震は6回で、震度5弱以上を観測した地震は1回でした。図の範囲内でマグニチュード（M）5.0以上の地震は19回発生しました。
「震度5弱以上」、「被害を伴ったもの（国内）」、「津波を観測したもの」のいずれかに該当する地震の概要は次のとおりです。
①石川県西方沖の地震（「令和6年能登半島地震」の一連の地震活動）
(2024/11/26 22:47 深さ 7km M6.6)
地殻内で発生した地震で、石川県輪島市及び志賀町で震度5弱を観測しました。
また、石川県加賀で長周期地震動階級2を観測しました。この地震で軽傷1人の被害がありました（11/27現在、石川県による）。
能登半島では2020年12月から地震活動が活発になっており、2023年5月5日にはM6.5の地震（最大震度6強）が発生しました。2023年12月までの活動域は、能登半島北東部の概ね30km四方の範囲で2024年1月1日16時10分に石川県能登地方の深さ16kmでM7.6（最大震度7）の地震が発生した後、地震活動はさらに活発になり、活動域は、能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東－南西に延びる150km程度の範囲に広がっています。11月26日のM6.6の地震は一連の活動域の西端で発生した地震で、二番目に大きな規模の地震です。一連の活動域では、地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的に緩やかに減少してきていますが、活発な状態が続いています。2020年12月から2024年12月までに震度1以上を観測した地震が2,629回（震度7:1回、震度6強:1回、震度6弱:3回、震度5強:11回、震度5弱:9回、震度4:63回、震度3:239回、震度2:655回、震度1:1,647回）発生しました。
2024年10月1日～2024年12月31日 M≧3.0 地震回数 ＝ 1440
世界の地震
今期間に世界で発生した、主にM7.5以上で深さ100kmより浅い地震、あるいは死者・行方不明者50人以上の被害を伴った地震はありませんでした。

「なゐふる（ナイフル）」は「地震」の古語です。「なゐ」は「大地」、「ふる」は「震動する」の意味です。
なゐふる 2025.5 日本地震学会広報紙 No. 141
Contents
2 初の「南海トラフ地震臨時情報」
－メディアはどう伝え、社会はどう動いたか－
4 シリーズ「阪神・淡路大震災から30年」その③
普通の地震は普通じゃない
6 海底地震計でナガスクジラの歌を聴く
8 イベント案内
・地震学夏の学校2025のお知らせ
・日本地震学会教員サマースクールのお知らせ
（左）ナガスクジラ（東京海洋大学・中村広准教授撮影）（右）クジラの歌も記録する海底地震計（写真提供：防災科研 S-net）。詳しくは6ページをご覧ください。
主な地震活動 Seismic Activity in 3 months
2025年1月～2025年3月
気象庁地震火山部 増田 智彬
2025年1月～2025年3月に震度4以上を観測した地震は38回で、震度5弱以上を観測した地震は2回でした。図の範囲内でマグニチュード（M）5.0以上の地震は33回発生しました。
「震度5弱以上」、「被害を伴ったもの（国内）」、「津波を観測したもの」のいずれかに該当する地震の概要は次のとおりです。
①伊豆諸島の地震
(2025/1/13 21:19 深さ 36km M6.6)
フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震で、宮城県宮崎市、高萩町及び新富町で震度5弱を観測しました。また、宮崎県南部平野部、宮崎県南部山沿い及び熊本県球磨で長周期地震動階級2を観測しました。この地震により、宮崎県の宮崎市[注1]で25cmの波を観測するなど、高知県から鹿児島県にかけて津波を観測しました。
この地震の震源付近では、2024年8月16日42分に3月以内の地震（深さ31km）が発生して、宮崎県日南市で震度6弱を観測しました。2024年8月8日から2025年3月31日までに震度1以上を観測した地震が558回（震度6弱：1回、震度5弱：1回、震度4：1回、震度3：7回、震度2：14回、震度1：31回）発生しました。
この地震で軽傷4人、住家一部破損2棟の被害がありました。（1/21現在、総務省消防庁による）。
気象庁では、1月31日14時55分にこの地震が南海トラフ沿いの大規模な地震に関連するかどうか調査を開始したことを公表しました。
注1 国土交通省港湾局の観測施設
②福島県会津の地震
(2025/1/23 02:49 深さ 4km M5.2)
この地震により、福島県穂枝岐村で震度5弱を観測しました。この地震の震源付近では、1月21日から地震活動が活発化し、3月31日までに震度1以上を観測した地震が96回（震度5弱：1回、震度4：1回、震度3：6回、震度2：23回、震度1：63回）発生しました。
世界の地震
今期間に世界で発生した、主にM7.5以上で深さ100kmより浅い地震、あるいは死者・行方不明者50人以上の被害を伴った地震を以下に記載します（時刻は日本時間、震源要素は米国地質調査所（USGS）、Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）。
● チベット自治区（中国）の地震
(2025/1/7 10:05 (日本時間) 深さ 10km Mw7.1)
この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は東西方向に張力軸を持つ正断層型でした。この地震により、死者3人などの被害が出ました。(3/31現在、国連人道問題調整事務所(OCHA)による)。
● ホンジュラス北方の地震
(2025/2/9 08:23 (日本時間) 深さ 10km Mw7.6)
この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は北北東－南南西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、北米プレートとカリブプレートの境界付近で発生しました。この地震により、海外では、メキシコのイスタ・ムヘーレス で0.0mの津波が観測されました（アメリカ海洋大気庁（NOAA）による）。
● ミャンマーの地震
(2025/3/28 15:20 (日本時間) 深さ 10km Mw7.7)
この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は北東－南西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型でした。この地震の震央付近では、同日15時32分にM6.0の地震が発生しました。これらの地震により、ミャンマーで死者約3,500人、行方不明者210人、タイで死者23人などの被害がありました。(4/6現在、国連人道問題調整事務所（OCHA）による)。
2025年1月1日～2025年3月31日 M≧3.0 地震回数 ＝ 1268

「なゐふる（ナイフル）」は「地震」の古語です。「なゐ」は「大地」、「ふる」は「震動する」の意味です。
なゐふる 2025.8 日本地震学会広報紙 No. 142
Contents
2 私見・南海トラフ地震臨時情報との付き合い方
4 揺れの個性が見える地震計を作ろう
6 地震学偉人伝その9：
地球深部に挑んだ巨人　和達 清夫
8 ●イベント案内　日本地震学会 2025年度秋季大会一般公開セミナー
「福岡県西方沖地震から20年：福岡の地震を振り返り、将来の地震に備える」
のお知らせ
●イベント報告　第57回記者懇談会が開催されました
和達清夫・随筆集『青い太陽』（東京美術、1971）より。詳しくは6ページをご覧ください。
主な地震活動 Seismic Activity in 3 months
2025年4月～2025年6月
気象庁地震火山部 増田 智彬
2025年4月～2025年6月に震度4以上を観測した地震は24回で、震度5弱以上を観測した地震は2回でした。図の範囲内でマグニチュード（M）5.0以上の地震は32回発生しました。
「震度5弱以上」、「被害を伴ったもの（国内）」、「津波を観測したもの」のいずれかに該当する地震の概要は次のとおりです。
①長野県北部の地震
(2025/4/18 20:19 深さ 13km M5.1)
地震内で発生した地震で、長野県大町市、小川村及び筑北村で震度5弱を観測しました。
この地震の震源付近では、今回の地震が発生する前から地震活動が見られ、4月18日から6月30日までに震度1以上を観測した地震が66回（震度5弱：1回、震度4：2回、震度3：3回、震度2：13回、震度1：47回）発生しました。
②トカラ列島近海の地震
(2025/6/30 18:33 M5.3)
陸のプレート内で発生した地震で、鹿児島十島村悪石島で震度5弱を観測しました。
トカラ列島近海では、6月21日05時頃から地震活動が活発となり、6月30日24時までに震度1以上を観測した地震が608回（震度5弱：1回、震度4：10回、震度3：43回、震度2：173回、震度1：471回）発生しました。
※震度1以上を観測した地震の回数は速報値で、その後の調査で変更する場合があります。
世界の地震
今期間に世界で発生した、主にM7.5以上で深さ100kmより浅い地震、あるいは死者・行方不明者50人以上の被害を伴った地震を以下に記載します（時刻は日本時間、震源要素は米国地質調査所（USGS）、Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）。
● トレーク海峡の地震
(2025/5/2 21:58 (日本時間) 深さ 10km Mw7.5)
この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は北東－南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、スコシアプレートと南極プレートの境界付近で発生しました。この地震により、海外では、南極大陸にあるベルナッキー研究基地で0.14mの津波が観測されました（アメリカ海洋大気庁（NOAA）による）。
2025年4月1日～2025年6月30日 M≧3.0 地震回数 ＝ 1407

新メーリングリストを開設

地震研究者と一般の方々との意見の交換の場として、**メーリングリスト「zisin-agora」**を新たに開設します。メーリングリストへの登録方法などは、後日、学会HPに掲載しますので、皆さんのご参加をお待ちしております。

●メーリングリストの名称について
アゴラの語源には「人が集まる場所」というような意味があります。このメーリングリストが、多くの人が集まる議論の場になるようにzisin-agoraと名付けました。

記者懇談会開催

報道関係者と地震学会の会員との意思疎通を目的として、1997年3月から記者懇談会を開催してきました。毎年、地球惑星科学連合大会と日本地震学会秋季大会に併せて、研究者等に**ホットな話題**や**開催地にゆかりのある話題**について講演していただき、マスコミ関係者と活発な議論がなされています。最近の話題提供の内容は表の通りです。

回（年）場所	話題提供者・題目
54 (2023) 横浜市	酒井慎一　東京大学大学院情報学環・学際情報学府 「関東地震と首都直下地震　～その予測と現状把握～」
55 (2024) 千葉市	佐藤比呂志　東京大学名誉教授 「日本海の地震・津波と震源断層モデル―能登半島地震を例として」
56 (2024) 新潟市	佐竹健治　東京大学名誉教授 「日本海沿岸の海底活断層と津波」
57 (2025) 千葉市	山下裕亮　宮崎公立大学 「日向灘の地震活動の特徴」
58 (2025) 福岡市	宮下由香里　産業技術総合研究所 地質調査総合センター 「「九州地域の活断層の長期評価」以降の九州地域の活断層調査」

2025年10月20日 17:45～18:45
福岡国際会議場　D会場（4階会議室413+414）

質問対応

一般の方からの質問対応及びマスコミからの問い合わせを担当しています。

地震学会ホームページのFAQの更新

地震学会ホームページ（http://www.zisin.jp/）の一般の方への情報やFAQを担当しています。

ご意見等は広報委員会までお知らせください。

QRコード地震学会FAQ

公益社団法人 日本地震学会
THE SEISMOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN(SSJ)
地震に関するFAQ List of FAQ

「なゐふるギフト」への参加のお願い

2025年度は、200件へお届け

教育の現場に「なゐふる」を！
会員の皆様、ご協力をお願いします！
自分の母校やお子さんの学校等に寄贈する
「なゐふるギフト」制度
年額600円

お申し込みは学会事務局へ

理科や社会の授業のほか、防災訓練やクラブ活動など活用の機会は多数

学会の財政面からは、すべての小中高校に寄贈することは困難です。

公益社団法人 日本地震学会
The Seismological Society of Japan (SSJ)